国語科学習指導案

指導者　下斗米　直子

1　日時　　平成１７年　６月　３０　日　（木）　　６校時

2　学級　　３年３組　　男子１７名　女子１７名　　計３４名　　南校舎２階

3　主題　　二　古典を味わう　　項羽ー「史記」からー

4　主題について

『二　古典を味わう　項羽ー「史記」からー』においては、学習指導要領の「C読むこと」の重点項目に捉えて、３項目の領域の中でも「ウ表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」を指導事項に続いてきたように、指導は散文の代表ともいえる漢詩の戦国時代を生きた人物の栄華と衰退の生涯を物語化することにより、主人公の思いを想像しながら漢文に触れることのできる教材であると考える。「史記」からは、生活の中で現在も多く用いられる故事成語や名言が生まれている。教材中にも、「四面楚歌」の生まれた場面が取り上げられており、生徒にとっても身近に感じられる教材だと考える。昔の人の思いに触れさせることで興味関心を持たせつつ、書き下し文や訓読文も学習させられる教材である。

古典は受け持ちの生徒にとって難しい古文であり、記号や表現の仕方などの大きな壁が立ちはだかっている。しかし、昔の人の思いや文章の特徴に注意して読むことは、１年生の故事成語、２年生の漢詩に続いて、３年生の戦国時代を生きた人物の栄華と衰退の生涯を物語化することにより、主人公の思いを想像しながら漢文に触れることのできる教材であると考える。「史記」からは、生活の中で現在も多く用いられる故事成語や名言が生まれている。教材中にも、「四面楚歌」の生まれた場面が取り上げられており、生徒にとっても身近に感じられる教材だと考える。昔の人の思いに触れさせることで興味関心を持たせつつ、書き下し文や訓読文も学習させられる教材である。

古典は受け持ちの生徒にとって難しい古文であり、記号や表現の仕方などの大きな壁が立ちはだかっている。しかし、昔の人の思いや文章の特徴に注意して読むことは、１年生の故事成語、２年生の漢詩に続いて、３年生の戦国時代を生きた人物の栄華と衰退の生涯を物語化することにより、主人公の思いを想像しながら漢文に触れることのできる教材であると考える。「史記」からは、生活の中で現在も多く用いられる故事成語や名言が生まれている。教材中にも、「四面楚歌」の生まれた場面が取り上げられており、生徒にとっても身近に感じられる教材だと考える。昔の人の思いに触れさせることで興味関心を持たせつつ、書き下し文や訓読文も学習させられる教材である。

5　指導と評価の計画（別紙）

6　本時の達成目標

国語への関心・意欲・態度	本文の大意を興味を持って掴もうとし、進んで項羽の心情を想像しながらまとめようとすることができる。
読む能力	漢文の特徴的な言い回しを手掛かりにして、窮地に追い込まれた項羽の心情を想像し、まとめることができる。
言語に関する知識・理解・技能	漢文独特の言い回しや表現技法による効果を理解し内容把握や主人公心情の想像に役立てることができる。

7　本時の指導の構想

（１）指導構想及び留意点

古典学習に苦手意識を持っている生徒達に、作品の持つ面白さを味わわせることで抵抗感を薄め、興味を持って学習に取り組めるように授業の構想を考えてみた。優れた才気の持ち主で、剛勇無双、直情径行であった項羽がついに垓下の戦いで窮地に追い込まれ滅びていくその心情を想像させることは、２０００年以上の時を越えても変わらない人間としての思いを身近なものとして捉えさせるのに大切な学習活動であると考える。一人の人間の生き様を通しながら、時代を超えて普遍的に変わらないものや人間の本質等、生徒によっては見出していける機会にも成り得る。

教材の持つ内容から迫りつつも、同時に漢文の基礎知識も身に付けさせられるような指導を考えている。生徒が主人公の心情を想像し、自分の言葉で表現できるようにするためには、漢文独特の言い回しを押さえながら内容を把握する活動がしっかりと行われなければならない。その点を重点に据え、指導を行いたいと考える。

（２）かかわり合いを生かす手立てについて

前時の学習場面であった「四面楚歌」の故事成語が生まれた場面における表現の特徴を踏まえての読みとりと、項羽の窮地に立たされた状況の把握という学習の流れから、本時における学習課題を設定し、それ以降の学習活動に見通しを持たせられるように指導過程を組むように心がけた。段階を踏んで上手くつなげていければ、生徒達はそれぞれの活動に必然性を感じながら学習を進めていけるものと考える。

また、本時に於いては、心情を想像させるために取り扱う教材文そのものがよりどころとなっている。教材文の特徴を捉えさせながら思考・判断をさせ、それぞれの読みを交流させることで関わり合いを持たせ深めていきたいと考える。

漢文に於いては、書き下し文・訓読文・返り点・五言絶句等の用語が使われるほか、本教材では対句法・反語法・反復法等の表現技法を表す用語が表現の特徴を捉える場面に出てくる。それらのことばの内容を正しく把握し使っていけるように、授業場面で意識して用いていきたい。

指導と評価の計画　　盛岡市立上田中学校

３年　　国　語	単元（題材）名　　二　古典を味わう　　項羽ー「史記」からー	総時間　　３　時間扱い

学習指導要領の指導事項
○Ｃ（読むこと）
　ウ　表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。
○[言語事項]
（１）ア　音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。

単元の目標	主な学習活動	評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「項羽」を読み、口語訳から大意を理解させると共に、漢文特有の言い回しに注意しながら項羽の心情を想像し朗読することができる。	①特徴的な表現に注意して心情を想像し、２００字程度の文章に書く。 ②表現の効果や想像した心情を生かして、書き下し文を朗読する。	B =「おおむね満足できると判断される状況」	「史記」について興味を持ち進んで調べたり、進んで読んだりし、漢文のリズムに慣れ、中国古典に親しもうとしている。	口語訳から「項羽」の大意を理解し、漢文独特の言い回しに注意して、書き下し文を朗読している。	漢文独特の言い回しを理解して、言葉の調子や速度、声量に注意するとともに、文章の内容に即した朗読をしている。
		A =「十分満足できると判断できる状況」の例	「史記」ついて興味を持ち、教科書以外の資料を使って進んで調べたり、漢文を進んで読んだりして、漢文のリズムに慣れ、中国古典に親しもうとしている。	口語訳から「項羽」の大意を理解し、自分なりの理解の表れた二百字程度の粗筋を書くことができ、また理解を生かした書き下し文の朗読をしている。	漢文独特の言い回しを理解して、言葉の調子や速度、声量に注意して朗読している。
		C =「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例	本文や書き下し文を繰り返し読み、漢文の読み方に慣れさせる。	口語訳を頼りに物語の流れをつかませたうえで、教師と共に書き下し文を繰り返し読ませたり、三カ所ある書き下し文から一カ所選ばせて練習させる。	教科書を参考にして、漢文特有の表現がどのように口語訳されているか指摘させる。

次	時	主な達成目標	主な学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	2 （本時１／２）	漢文独特の言い回しを踏まえ、「項羽」の大意を捉えたり、心情を想像したりできる。	特徴的な表現に注意して大意や主人公の心情を捉え、文章にまとめる。	「項羽」について興味を持ち、進んで内容を理解したり、心情を想像しようとしたりしているか。	口語訳から「項羽」の大意を理解すると共に、そこから生まれた故事成語の由来や漢文独特の言い回しに注意して主人公の心情をまとめることができる。	
2	1	物語全体を通して捉えた項羽の心情を踏まえながら、工夫して漢文の朗読を行うことができる。		本文の内容理解の上に立った朗読ができるように、工夫をしながら書き下し文を読もうとしている。	「項羽」の大意と主人公の心情の理解の上に立ち、内容に即して書き下し文を工夫しながら朗読している。	漢文独特の言い回しを理解し、声量・速度・抑揚に留意してより効果的な朗読が出来るように工夫している。

項羽 ―「史記」から―

三　年　　組

★今日の学習場面における項羽の心情を、想像してまとめてみよう。